

## 2013年（平成25年）の世界の天候（速報） ～主な異常気象と気象災害～

本資料は、世界各国からの1～11月までの観測データ及び12月13日までに入手した災害情報をもとに、速報としてまとめたものです。確定値による資料は、平成26年1月14日に気象庁の世界の天候のホームページで発表します。

### ○東日本から中国中部にかけて異常高温

東日本から中国中部にかけて、3、7～8月は異常高温となった。上海市のシージャーホウエイ（徐家匯）では、8月7日に統計開始（1872年）以降で最も高い気温（40.8℃）を記録した（中国気象局）。

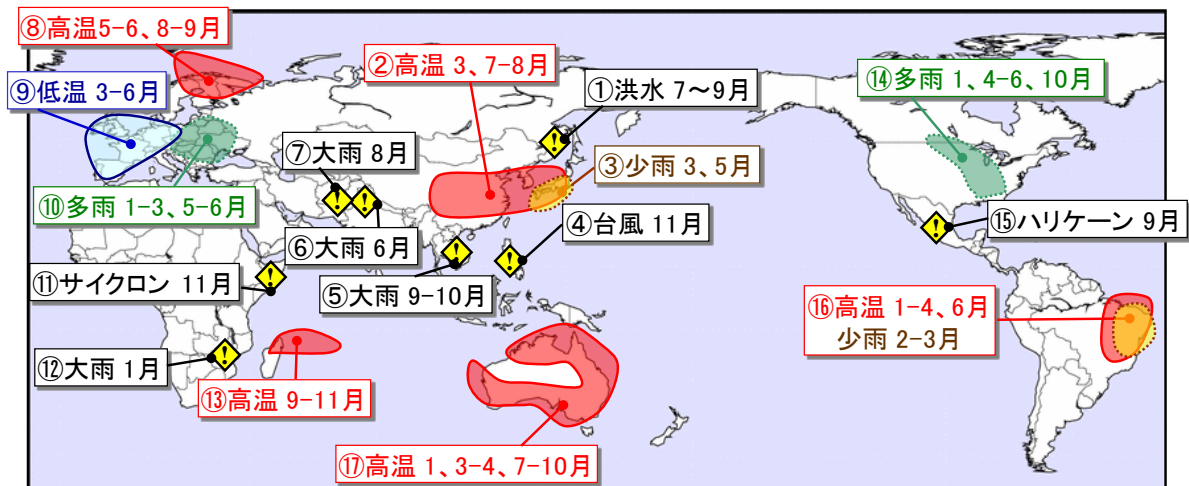
### ○オーストラリアで異常高温

オーストラリアではほぼ年を通して気温が高く、1、3～4、7～10月に異常高温となった。1月と9月は1910年の統計開始以来、月平均気温が最も高かった（オーストラリア気象局）。

### ○台風や大雨による大きな気象災害

フィリピン（台風、11月）、インド・ネパール（大雨、6月）、パキスタン・アフガニスタン（大雨、8月）などで大きな気象災害が発生した。

2013年に発生した主な異常気象・気象災害は以下のとおり。



### 世界の主な異常気象・気象災害（2013年（平成25年）速報）

比較的大きな規模の「異常気象」及び気象が原因となって生じた大きな災害（「気象災害」）のおおよその地域・時期を示した。図中の番号は概況文の番号と対応している。

※ 異常気象：ある場所において30年に1回以下の稀な頻度で発生する現象のこと。本資料では月平均気温や月降水量から異常と判断された現象を示している。

※ 災害情報：米国国際開発庁海外災害援助局とルーベンカトリック大学災害疫学研究所（ベルギー）の災害データベース（EM-DAT）や各国の政府機関・国連の発表等に基づいている。

### ① 東シベリア南部の洪水（7～9月）

東シベリア南部のアムール川流域では7月以降、広い範囲で平年よりも雨が多く、中流・下流域で洪水が発生した。ロシア極東域で1万4千の家屋、総延長1600kmに及ぶ道路や170以上の橋が洪水の影響を受け、アムール川下流のコムソモリスク・ナ・アムーレでは680棟以上の家屋が浸水し、約2700人が避難した。

### ② 東日本～中国中部の高温（3、7～8月）

東日本から中国中部にかけて、3、7～8月に異常高温となった。東京都の東京では、3月の月平均気温が12.1℃（平年差+2.7℃）だった。福岡県の福岡では、7～8月の2か月平均気温が30.0℃（平年差+2.3℃）、中国ホーナン（河南）省のチェンチョウ（鄭州）では、29.6℃（平年差+3.1℃）だった。上海市のシージャーホウエイ（徐家匯）では、8月7日に統計開始（1872年）以降で最も高い気温（40.8℃）を記録した（中国気象局）。また、高知県の江川崎では8月12日に最高気温が41.0℃となり、我が国の日最高気温の記録を更新した。

### ③ 東日本及び西日本の少雨（3、5月）

東日本及び西日本では3月と5月に異常少雨となった。宮崎県の宮崎では、3月の月降水量が49.5mm（平年比27%）、5月の月降水量が67.0mm（平年比28%）だった。東日本太平洋側・西日本太平洋側では、5月の月降水量が1946年の統計開始以降で最も少なかった。

### ④ フィリピンの台風（11月）

フィリピンでは台風第30号により1200万人以上が影響を受け、6000人以上が死亡し、1700人以上が行方不明と伝えられた。

### ⑤ インドシナ半島の大雨（9～10月）

インドシナ半島では、大雨による洪水の影響で、カンボジアでは14万人が避難し、180人以上が死亡、タイでは70人以上、ベトナムでは40人以上が死亡したと伝えられた。

### ⑥ インド・ネパールの大雨（6月）

大雨による洪水や地すべりの影響で、インド北部のウッタラカンド州を中心に600人以上が死亡し、5700人以上が死亡と推定され、また、ネパールでは50人以上が死亡したと伝えられた。

### ⑦ パキスタン・アフガニスタンの大雨（8月）

パキスタンでは大雨による洪水により、149万人以上が影響を受け、230人以上が死亡し、また、アフガニスタンでは60人以上が死亡したと伝えられた。

### ⑧ ヨーロッパ北部の高温（5～6、8～9月）

ヨーロッパ北部では、5～6月と8～9月に異常高温となった。ノルウェー北部のバルデでは、5～6月の2か月平均気温が7.9℃（平年差+3.1℃）、8～9月の2か月平均気温が11.3℃（平年差+3.0℃）だった。

### ⑨ ヨーロッパ西部の低温（3～6月）

ヨーロッパ西部では3～6月に異常低温となった。フランスのラアーグ岬では、3～6月の4か月平均気温が9.6℃（平年差-1.8℃）だった。

⑩ ヨーロッパ東部～中部の多雨（1～3、5～6月）

ヨーロッパ東部から中部にかけて、1～3、5～6月に異常多雨となった。クロアチアのザグレブでは、1～3月の3か月降水量が379mm（平年比247%）、チェコのプラハでは、5～6月の2か月降水量が347mm（平年比265%）だった。

⑪ ソマリアのサイクロン（11月）

サイクロン「Three」の影響により、100人以上が死亡し、数百人が行方不明と伝えられた。

⑫ モザンビーク・ジンバブエの大雨（1月）

モザンビークでは、1週間以上続いた大雨による洪水の影響で、110人以上が死亡した。また、ジンバブエでも洪水により120人以上が死亡した。

⑬ モーリシャス～マダガスカルの高湿（9～11月）

モーリシャスからマダガスカルにかけて、9～11月に異常高湿となった。モーリシャスのアガレーガ諸島では、9～11月の3か月平均気温が27.2℃（平年差+0.8℃）だった。

⑭ 米国東部及びその周辺の高湿（1、4～6、10月）

米国東部及びその周辺では、1、4～6、10月に異常高湿となった。米国ウィスコンシン州のマディソンでは、1月の月降水量が73mm（平年比217%）、4～6月の3か月降水量が591mm（平年比198%）、オハイオ州のシンシナティでは、10月の月降水量が144mm（平年比183%）だった。

⑮ メキシコのハリケーン（9月）

メキシコでは、2つのハリケーン「Manuel」と「Ingrid」がそれぞれ太平洋側、大西洋側からほぼ同時に接近・上陸した影響で、130人以上が死亡し、50人以上が行方不明と伝えられた。

⑯ ブラジル東部の高湿（1～4、6月）・少雨（2～3月）

ブラジル東部では、1～4月と6月に異常高湿、2～3月に異常少雨となった。ブラジル東部のレンソイスでは、1～4月の4か月平均気温が26.8℃（平年差+1.8℃）、6月の月平均気温が23.1℃（平年差+1.8℃）だった。パトスでは、2～3月の2か月降水量が37mm（平年比11%）だった。

⑰ オーストラリアの高湿（1、3～4、7～10月）

オーストラリアでは、ほぼ年を通して気温が高く、1、3～4、7～10月に異常高湿となった。オーストラリア南部のユークラでは、1月の月平均気温23.3℃（平年差+2.4℃）、3～4月の2か月平均気温21.3℃（平年差+2.2℃）、7～10月の4か月平均気温16.7℃（平年差+2.4℃）となった。1月の月平均気温は、統計を開始した1910年以降で最も高くなり、オーストラリア中部のムーンバでは、1月12日に49.6℃を記録した。また、オーストラリアの9月の月平均気温及び12～2月、9～11月の3か月平均気温が統計開始の1910年以降で最も高くなった（オーストラリア気象局）。

※ 世界の天候や異常気象に関する最新の情報は、気象庁ホームページの「世界の天候」で毎週更新しています。（<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/index.html>）

【この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 異常気象情報センター  
03-3212-8341 内線3157】